



結核しずおか

13号2003年9月19日

編集・発行

財団法人結核予防会静岡県支部

〒420-0915

静岡市南瀬名町6-20

TEL 054-261-2512

FAX 054-261-9474

Eメール tb-shizu@topaz.ocn.ne.jp

発行責任者 金原明彦

印刷 三協印刷株式会社



静岡県健康福祉部長就任所感

結核予防会静岡県支部や静岡県結核予防婦人会をはじめ、市町村、学校、検診事業所等の皆様方におかれましては、日ごろ、結核の予防、治療など県の健康福祉行政に関し御理解、御協力をいただき厚くお礼申し上げます。

私は6月14日付で県健康福祉部に着任いたしました。当時は重症急性呼吸器症候群（SARS）がアジア地域を中心に流行している最中でありました。その後7月5日に、WHOによりSARSの流行指定地域が全て解除され、終息した状況にあります。SARSに関してはまだ解明されていない点が多いことから、県では引き続き対策を講じているところであります。

結核については、新たな感染症として発生したSARSと異なり、長年にわたり、取り組んできた感染症であります。近年では、結核が流行していた若い頃に感染した高齢者が体力・抵抗力が弱まって発症するケースが多くみられます。

結核を今後、さらになくしていくためには、患者の早期発見、確実な服薬治療など、これまで以上に、行政、医療機関、結核予防会などが一丸となって取り組んでいくことが必要でありますので、より一層の御理解と御協力をお願いします。

さて、本県では、来年4月8日から10月11日まで半年間にわたり、国際園芸博覧会「浜名湖花博」が開催されます。また、念願の静岡空港も、平成18年度中のオープンを目指して県を挙げて努力しております。

こうしたことにより、今後、国際交流がますます盛んになる中、健康で安心して暮らせる静岡県として、国内外の人々に誇れる健康づくりをしてまいりますので、何卒よろしく願いいたします。

平成 15年 9月

静岡県健康福祉部長
川口 正俊



全国・静岡県の結核の統計

平成14年の本県の新登録患者数は808人と過去最低となっている。これは昭和36年時の15分の1である。また、年齢構成は60歳以上が70%と大きな比率を占めており、体力などが弱まる高齢者には定期健診や日ごろの健康チェックが特に大切である。

一方、住民検診受診率が、毎年低下していることが懸念される。

結核の統計（静岡県健康福祉部疾病対策室資料より抜粋）

1. 結核登録患者（登録患者数及び新登録患者数の推移 *平成10年以降は新活動性分類による） (人)

区分	年末現在登録患者数				年内新登録患者数			
	全国		本県		全国		本県	
	患者数	10万人対	患者数	10万人対	患者数	10万人対	患者数	10万人対
昭和36年	1,615,099	1,717.1	38,692	1,391.1	419,424	445.9	12,235	439.9
40	1,469,583	1,495.4	35,854	1,231.0	304,556	309.9	7,611	261.3
50	726,862	649.6	16,695	504.6	108,088	96.6	2,751	83.1
60	306,262	253.1	7,086	198.2	58,567	48.4	1,711	47.9
平成7年	168,581	134.3	4,536	121.3	43,078	34.3	1,240	33.2
10	107,058	84.6	2,417	64.3	41,033	32.4	962	25.5
11	104,813	82.7	2,463	65.2	43,818	34.6	1,044	27.7
12	99,481	78.3	2,279	60.4	39,384	31.0	896	23.8
13	91,395	71.8	2,072	54.9	35,489	27.9	871	23.1
14			2,007	53.0			808	21.3

2. 結核死亡者数 (人)

年次	全国	本県	死因順位(全国)
昭36年	27,916	652	7位
40	22,366	560	7
50	10,567	271	10
60	4,692	126	16
平7年	3,178	104	23
10	2,795	83	22
11	2,935	67	21
12	2,656	30	24
13	2,488	43	25
14		39	

3. 新登録患者年齢構成（静岡県） (%)

区分	年齢別構成比						
	~19歳	20代	30代	40代	50代	60代	70歳~
昭36年	20.0	15.9	18.3	13.2	13.4	12.6	6.6
50	—	—	—	—	—	—	—
60	2.9	5.8	6.4	10.3	17.4	22.3	34.9
平7年	1.9	5.6	5.1	9.9	13.2	22.5	41.8
10	2.1	5.7	4.7	9.0	12.2	20.9	45.4
11	1.4	6.8	6.2	7.5	11.3	17.9	48.9
12	1.2	5.7	5.7	7.6	12.3	16.1	51.5
13	1.0	6.2	5.3	6.3	13.7	18.1	49.4
14	0.9	6.8	6.4	5.3	10.5	15.8	54.2

4. 住民検診受診状況（静岡県）

区分	平成10年	11年	12年	13年	14年
対象者数 (人)	1,007,961	1,059,905	1,057,383	1,124,633	1,123,469
受診者数 (人)	493,391	502,991	490,461	495,005	481,784
県受診率 (%)	48.9	47.5	46.4	44.0	42.9

市町村保健センターの紹介

芝川町保健福祉センター

芝川町は、駿河湾の最も奥まった富士川河口を12km遡ったところに位置しています。

面積は、74.18km²あり、町域の約8割を山林原野と河川が占める水と緑の町です。

町民の健康づくりの拠点として建てられた保健福祉センターは、平成7年4月に開設し、ほけん課（保健係）と社会福祉協議会、シルバー人材センターの事務所を有しています。こどもや高齢者・障害をもった方の利用等を考え平屋建てとなっており、中央にあるホールや各部屋の天井にある明かり取りから自然の光が入る明るい施設となっています。

芝川町では、平成14年高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画とあわせて、保健計画の見直しを行い、「しばかわ きらめき 21」を策定しました。この計画は、「全町民がすこやかにきらめきながら長生きしてほしい」という願いをあらわす「健やかに きらめいて」を基本理念に保健と福祉それぞれの立場から検討しあい策定されたもので、実現を目指して奮闘しています。



みんなで作る健康福祉まつり

毎年6月の下旬に行う健康福祉まつりでは、保健福祉センターを利用する団体と一緒に『広げよう健康づくりと福祉の輪』をテーマに「健康・保険エリア」「福祉・いきがいエリア」「環境・消費生活エリア」の3つに分かれ日頃の活動の発表や住民に知ってほしい情報等を紹介しています。

今年は、ほけん課職員による転倒防止意識を啓発する寸劇『転倒予防で若返り』を披露しました。積極的に体を動かし転倒予防を図る大切さをわかり易い劇で表現したこともあり会場は盛り上がりました。

町内を細かく巡回する胸部検診

芝川町の結核・肺がん検診の受診者は約2,600人。検診日程は追加検診まで含めて11日間・45会場となっています。これは、町の面積が広く集落が点在している為で1人でも多くの住民（特に車に乗れない高齢者等）の方に受けていただけるよう配慮されてきたものです。1日の受診者は多い日で320人、少ない日は170人程度と胸部検診だけと思うととても効率の悪い検診ですが、毎年結核予防会や予防医学協会の協力により血圧測定を中心とした健康相談、若い女性の貧血と脂質の検査を同時に行い住民サービスに努めています。

（芝川町保健福祉センター 看護師 佐野 ひろみ）

全国結核予防週間が始まります

平成15年9月24日(水)～30日(火)

わが国の結核事情は大幅な改善を遂げてきましたが、罹患率、死亡率は先進国の中で最も高い状況にあり、依然として平成11年7月の「結核緊急事態宣言」前と同水準で推移しています。

現在のわが国では、旧世紀になしえなかった結核制圧に向けて、結核対策の見直しを進めているところがありますが、新しい結核対策を推進していく上で、国民一人一人の理解と協力が必要不可欠であります。結核予防週間を機会に国民の結核に対する関心を大いに高めるとともに、結核に関する知識を深め、結核対策の推進に一丸となって取り組むこととしています。

静岡県結核予防大会の開催

静岡県結核予防婦人会と共催で、静岡県の後援並びに市町村の協力を得て、開催します。

- 1 開催日 平成15年9月26日(金)午後1時から
- 2 会場 静岡県総合社会福祉会館 7階 大ホール
- 3 内容 ①結核予防事業功労者、功労団体の表彰

②特別講演

- ・講師 小林 典子 先生
(結核研究所対策支援部保健看護学科長)

- ・演題 「病気も偏見もなくそう

～複十字シールはこんなところにも～

- ・講演時間 午後2時から



(昨年の大会状況)

結核予防週間キャンペーンの実施

静岡県、静岡市、静岡県結核予防婦人会と協力して実施します。

- 1 実施日 平成14年9月27日(土)午前11時から
- 2 場所 ・静岡市青葉イベント広場
・静岡駅コンコース

3 内容

①街頭キャンペーン

結核予防のリーフレット、ポケットティッシュなどを配布し、結核予防を呼びかけ、併せて複十字シール募金活動を行います。

②展示広報

結核予防や健康について理解を深めていただくため、パネルやX線撮影装置等を展示し、機器にふれる場を設けるとともに、結核、肺がんに関する健康相談や健康測定を行います。



(昨年のキャンペーン状況)

◎ 静岡県結核予防婦人会各支部の協力を得て、県内各地において複十字シール募金運動、街頭キャンペーンを実施し、結核予防思想の普及啓発を図ります。



秩父宮妃殿下と複十字シール運動・秩父宮記念公園の関わり

昭和14年に財団法人結核予防会総裁に御就任なされてから、妃殿下には全国での結核対策を推進する方々への激励や街頭での募金活動、各地の結核予防婦人講習会で多くの婦人会の方々との交流、さらには御殿場市に御別邸がある関係から、結核予防のために全国から御殿場の地に集まった婦人講習生を御別邸に招かれ一時を過ごされました。

その後、妃殿下が薨去なされて、御遺言により御別邸が御殿場市へ遺贈され、平成15年4月より秩父宮記念公園として一般公開されました。

これを機に結核予防会でも複十字シール募金活動の一環として、この公園の管理事務所に複十字シール運動のお願いをすることとなりました。



記念館（母屋）



管理事務所にパンフレット設置

秩父宮記念公園 全体案内図



〒412-0026 静岡県御殿場市東田中1507-7
TEL 0550-82-5110 FAX 0550-84-2228

SARS(重症急性呼吸器症候群)の対応について

2002年11月中国広東省から発生したSARSは、約8ヶ月の短期間で香港、ベトナム(ハノイ)、カナダ(トロント)、台湾SARS等の32カ国に伝播し、患者数8,437人、死者813人(7月11日現在)という多数の感染者を出しました。

WHOは伝播地域の各国に対し、S患者を隔離し、バリアナーシング(病原体封じ込め看護手技)による治療を推奨し、その結果、去る7月5日に最後のSARS伝播地域である台湾を指定解除し、SARS終息宣言を行いました。

これにより我が国は、この間一人の感染者も出さず、SARSの終息を見ることができました。

しかし、未だ有効的なSARSワクチンは開発されておらず、WHOでは、この冬季において、流行するインフルエンザがSARSの症状と類似しているため、診断の見逃しによる感染の拡大が懸念されると報告しています。

このことから、当センターでは、当地が国内でも有数の観光地であり、海外からの来訪者も多いことから、感染の未然・蔓延予防策を講ずることが第一と考え、県下でも先駆けて管内の行政機関・病院・消防署や旅館組合・観光協会等とも情報交換会やSARS対策研修会を開催し、現場での不安や混乱を招かないように未然防止策を講じました。

また、宿泊施設に対し、SARSの正しい知識を習得してもらうための「SARS対応テキスト」を作成し配布すると共に、海外の宿泊者の健康管理を把握するために、中国語・英語の「問診票」を提示いたしました。

この新たな感染症の出現により、過去の感染症とも言われた結核も、近年は逆に増加傾向を示していることに鑑み、新興感染症や再興感染症への一貫した予防対策が重要であると痛感する昨今であります。

(静岡県熱海健康福祉センター所長 岩間 真人)



コラム

胃の検診業務に携わって

みなさん はじめまして!! 看護師の田村きみ子です。お世話になっております。

早いもので、平成7年3月に富士市保健福祉センターから富士市の胃がん検診業務のお手伝いのお話を頂き、結核予防会静岡県支部にお世話になり始めてから今年で9年目に入りました。

その後、平成11年4月より胃の検診が1年を通して行われるようになり、ほとんど休むこともなく無我夢中で頑張った毎日です。

住民の方とは、ほとんどの方と顔見知りとなり検診に伺っても、とても温かく迎えて頂き大変感謝をしております。最近では、受診者の方も年々高齢化していく中で持病を持っている方、身体の不自由な方、耳の遠い方、胃検診を緊張して受診される方なども多く、受診される方がリラックスできるようにスマイルをモットーに声かけをするようにしています。これからは私自身初心にかえって、胃がん検診を円滑に行うために最善の努力を尽くしたいと思います。

この仕事を通して、沢山の住民の方との出会い、触れ合い、そして住民の方から時々激励の言葉を頂くことがあり、その時は本当に実感として、この仕事に生き甲斐を感じており、また結核予防会スタッフの皆様の御協力のおかげだと感謝しております。

これからも全力で頑張りたいと思いますので、よろしく願いいたします。



(看護師 田村きみ子)

連載 なぜ・なぜ・なぜに

胸部のエックス線写真を撮る時に、 息を吸って一旦止めるのは、なぜでしょうか？

息を吸い込まなくても胸の写真は撮影できます。
しかし、なぜ息を吸うかという肺を大きく膨らませることによって、より診断し易い写真を得るためなのです。

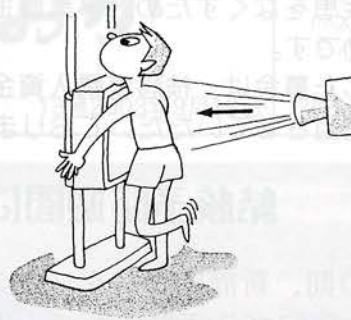
では、なぜ肺が大きく広がると診断し易くなるのでしょうか？

肺は、小さな風船のような肺胞というものが沢山集まってできています。

その中に空気を十分吸い込むことによって、肺全体が大きく広がり、また気管支や血管など肺内の構造が見やすくなり、よりの確な診断ができるようになります。その結果、病気の診断が確実になるというわけです。

以上のようなことから、「大きく息を吸って一旦息を止めること」は、とても重要なことなのです。是非ご協力をお願いします。

(検診課 診療放射線技師 宮崎 文考)



キ〜オ先生の一日



若い世代への啓蒙

健診の役割の一つとして、啓蒙活動があります。わが国においても、ようやく「絶煙」が浸透し始め、成人男性の喫煙率は下降傾向にあります。しかし、禁煙による肺がん減少の効果が現れるのには30年かかるといわれ今だ、わが国の肺がん死亡は上昇しています。

さらに、若い女性の喫煙率の増加、喫煙開始の低年齢化。喫煙開始年齢は、小学生にまで低下し、小・中学生の「卒煙」外来すらあります。生まれて初めてのタバコが美味しいならともかく、大体一本目は死ぬほど不味くて、クラクラして、ぶっ倒れそう・・・です。それを取って吸うのは、カッコいい、面白半分、良い子でいたくない、そんなところでしょうか。若い女性も同様、タバコはファッションと化し、また「痩せたいから吸う」という意識が強いのに驚かされます。老化を早め美容に悪いこと、将来的には胎児への影響、乳児突然死症候群の一因になることなど、ご存知ない方も多いようです。タバコは合法的な毒物です。タバコはこわい！吸うのはカッコ悪い！家庭でも学校でも社会でも、もっとこのことを広めたいところです。

若い世代に知っていただきたいことは他にもあります。種々の性感染症が増えており、不妊の原因となるものもあります。H I V感染者（注；発病者とは異なる）は、約1万人に1人とも言われています。我が国は、先進国の中でエイズ感染者が増加している唯一の国であり、近い？将来に10代から20代の若者層をも巻き込んで爆発的に増加する危険性も指摘されています。ところが、ある意識調査では、多くの人々が、エイズは自分とは関係ないと思っていることが、明らかにされています。

結核予防会顧問・エイズ予防財団理事長の島尾忠男先生は、ご講演の中で、「若者は変わった。」と述べられました。ものが溢れ、精神面の豊かさを取り沙汰される時代にあって、日本人が拠りどころとした恥の文化は失われました。自由は、社会に対する「義務」と「責任」を果たして始めて獲得するものではなくなってしまいました。子供を有りの俵に受け入れることが大事だと強調され、家庭の教育力は低下しました。米を研ぐのに、洗剤を使う高校生がいるそうです。しかし、その高校生を非難するのは間違っています。タバコの害にしろ、エイズ問題にしろ、教えなければ知らないままです。若者は「無知」なのではなく、単に「未知」（知るべき情報を知らされていない）のかもしれませんが。若い世代に教え続けることは、親、教師ならずとも、我々みんなの務めです。（島尾忠男氏） 劇中（(財)結核予防会静岡県支部 静岡診療所長 小林健司）



〈おしらせ〉

複十字シール運動募金にご協力をお願いします



結核やその他の胸部疾患をなくすため、事業資金を集めることを目的として日本、世界約80カ国で実施されている募金活動です。

皆様からいただきました募金は、検診車購入資金、結核予防思想の啓発活動、さらには発展途上国の援助資金等の諸事業に充当させていただいております。

結核予防週間にむけて・・・

平成15年8～9月の間、新静岡センターバスターミナルのバスのりば案内表示板（④、⑩、⑮番）の最上部及び、南口プラザ電光ニュースライト広告に文字放送（アド・ニュース）を流して、結核予防週間及び、複十字シール運動募金の広報を行っております。



いきいきしあわせ健康診断
結核検診
肺がん検診
胃がん検診



シールの使用例



複十字シール運動

募金目標額 3千万円

結核や肺がんのない明日の社会をつくるために

結核をなくそう！
結核撲滅のための募金活動です！



この運動の益金は施設・機器整備、教育広報、国際協力事業等に使われています。

皆様の御協力をお願いします。

財団法人 結核予防会 静岡県支部
静岡県結核予防婦人会

財団法人結核予防会では
ホームページを開設しております
HPアドレス <http://www.jata.or.jp/>
静岡県支部Eメール
アドレス tb-shizu@topaz.ocn.ne.jp

職員の表彰



原田 士朗（計画課長）

結核予防会30年永年勤続表彰

編集後記

当支部喫煙者の協力も得て、喫煙場所がついに屋外に移り、少なくとも屋内から紫煙やタバコの臭いは消えました。
ある広報誌によると「タバコを1本吸うごとに、あなたの寿命は5分30秒短縮されていると言われていました。1日20本なら、1日約2時間の寿命が短縮される計算になります。」と書かれていました。これをどう考えるか各喫煙者の判断のしどころですね。（A. K）

題字：田中隆（元支部職員） 表紙撮影：白鳥岩男（事業部長）